

# 猫の伝染病



## ワクチン接種で予防できる病気

### ● 猫ウイルス性鼻気管炎(FVR) ●

猫のヘルペスウイルスが原因の病気です。

感染猫のクシャミや分泌物などからうつる猫の「鼻カゼ」とも言われているものです。

症状は、急激な元気消失・食欲消失、そして発熱・鼻水・クシャミ・目ヤニなどです。

下痢をし脱水症状を示して衰弱が進み、死亡することもあります。

### ● クラミジア感染症 ●

猫のクラミジアによる感染症です。感染猫との接触で感染します。

主な症状は、粘着性の目ヤニを伴う慢性持続性の結膜炎です。また、鼻汁やクシャミ・咳などが現れ、時に気管炎・肺炎などを併発し、重症化した場合は死亡することもあります。

### ● 猫カリシウイルス感染症(FCV) ●

猫のカリシウイルスによる病気で、猫のインフルエンザとも呼ばれているものです。感染猫との直接接触のほか、クシャミの飛沫・手・衣服・食器など間接的な媒介物によっても感染します。

初期症状は、クシャミ・鼻水・咳・発熱など、鼻気管炎と大変よく似ています。さらに症状が進むと、舌や口の周辺に潰瘍ができます。2次感染が起きると、肺炎を併発して死亡することもある病気です。

### ● 猫汎白血球減少症(猫伝染性腸炎) ●

猫のパルボウイルスが原因の病気です。感染力が強く、感染してから急激に症状が出ることもあり、体力の弱い子猫など1日で死亡することもある恐ろしい病気です。

感染猫との接触、感染猫の便・尿・嘔吐物で汚染された物、またノミなどの外部寄生虫によっても拡散されます。最初は食欲がなくなり、水も飲まずにうずくまった状態になります。白血球が極端に減少し、発熱・激しい嘔吐、時として血便や下痢が始まり脱水症状を引き起こします。

### ● 猫白血病ウイルス感染症(FeLV) ●

オンコウイルス(レトロウイルスの一種)によって引き起こされます。

ウイルスは感染猫の唾液や血液などに含まれ、猫同士のケンカによる接触などで感染します。

名前のとおり白血病の原因となったり、この他にも免疫力が低下し、流産や肝臓病・リンパ腫などのいろいろな病気の原因にもなる恐ろしい病気です。特に生後間もない子猫が感染すると発病しやすく死亡率も高いです。

### ● 猫免疫不全ウイルス感染症(FIV) ●

一般に猫エイズと呼ばれる病気ですが、人のエイズとは全く異なる別の病気で、人や他の動物に感染することはありません。感染は猫同士の接触によるもので、ケンカなどで咬み傷から感染する 경우가ほとんどです。

猫エイズウイルスに感染し、病気が発症し免疫不全を起こして初めて猫エイズとなります。感染していても発症していない猫もあり、無症状キャリアと呼んで区別しています。

## 予防できない病気

### ● 猫免疫不全ウイルス感染症(FIV) ●

一般に猫エイズと呼ばれる病気ですが、人のエイズとは全く異なる別の病気で、人や他の動物に感染することはありません。感染は猫同士の接触によるもので、ケンカなどでの咬み傷から感染する場合がほとんどです。

猫エイズウイルスに感染し、病気が発症し免疫不全を起こして初めて猫エイズとなります。感染していても発症していない猫もあり、無症状キャリアと呼んで区別しています。

### ● 猫伝染性腹膜炎(FIP) ●

コロナウイルスが原因で引き起こされる病気です。猫に感染するコロナウイルスにはいくつかあり、猫伝染性腹膜炎を起こすものと腸炎を起こす腸炎性コロナウイルスがあります。

発病した猫の唾液・鼻水・便・尿から、直接または間接的に経口・経鼻感染しますが、感染力はあまり強くありません。

初期の症状には食欲消失や発熱がみられたりします。重症になると腹水や胸水、黄疸の症状が出たり、他の臓器も侵され、様々な症状も発現します。

## ワクチンの種類

- 3種混合ワクチン：4000円  
《猫汎白血球減少症、猫ウイルス性鼻気管炎、猫カリシウイルス感染症》
- 5種混合ワクチン：7500円  
《猫汎白血球減少症、猫白血病ウイルス感染症、猫ウイルス性鼻気管炎、クラミジア感染症、猫カリシウイルス感染症》
- 猫免疫不全ウイルス感染症(猫エイズ)ワクチン：4500円

※初めて5種混合ワクチン(猫白血病ウイルス感染症)をされる場合は、ウイルスを持っていないかの確認の血液検査が必要です。(4000円)  
(この検査で同時に猫免疫不全ウイルスを持っていないかも分かります)

## ワクチン接種の時期

生後2か月齢頃になると、母猫からもらった移行抗体がなくなっていきます。その頃に1回目のワクチン接種をしてあげてください。  
初年度は1回の接種だと免疫力がつきにくいので、2～3回の接種が必要です。1回目のワクチン接種から1か月後に2回目の接種をしてあげてください。

ワクチン接種によって作られる免疫は一生続くものではありません。  
成猫になっても継続して受けてあげてください。

# 犬の伝染病



## ワクチン接種で予防できる病気

### ● ジステンパー ●

ジステンパーウイルスによって感染し、うつりやすく死亡率も高い、犬の代表的な病気です。空気感染と感染した犬から直接うつる場合があります。

子犬での発生が最も多く、感染すると発熱や食欲消失・膿性の鼻汁・目ヤコといった初期の症状から、呼吸器系・消化器系に広がり、激しい咳や下痢・脱水などの症状が現れ、てんかん様発作・後躯麻痺等の神経症状を示し、衰弱死してしまいます。

### ● パルボウイルス感染症 ●

パルボ(極小という意味)ウイルスによる急性伝染病で、1979年にアメリカで発見され、その後世界中に広まりました。犬パルボウイルスはチリやほこりに混じって長時間生存する、大変抵抗性の強いウイルスです。

感染犬の嘔吐物や便などから感染します。

母犬譲りの免疫のない子犬が突然死してしまう心筋炎と、激しい下痢や嘔吐を特徴とする腸炎型があります。

子犬の場合は、特に症状が重く死亡率も高いので、注意が必要です。

### ● アデノウイルス1型(犬伝染性肝炎) ●

### ● アデノウイルス2型 ●

犬アデノウイルスには1型と2型の2種類があります。

1型は感染犬の唾液・便・尿などから感染。2型は感染犬との接触、咳やクシャミなどの飛沫から感染します。

1型は、子犬の突然死(感染して一晩で死亡する場合があります)や、発熱・元気消失・食欲消失・嘔吐・下痢・扁桃腺の腫れ・目(角膜)の白濁といった犬伝染性肝炎の症状を起こします。2型は、肺炎や扁桃腺など呼吸器病を引き起こします。現在2型のワクチンで1型の犬伝染性肝炎も予防できることから、2型ウイルスによるワクチンが主に用いられています。

### ● 犬パラインフルエンザ ●

犬パラインフルエンザウイルスは単独での感染症よりも犬アデノウイルス2型・犬アデノウイルス1型・ボルデテラ・マイコプラズマなど色々なウイルスや細菌と混合感染して、気管支炎や肺炎、または一般に「ケンネルコフ」と呼ばれる呼吸器系疾患を起こすものとして知られています。伝染力が非常に強く、病犬との接触や、咳やクシャミなどから空気感染を起こすこともあります。気管・気管支・肺に炎症を起こし、激しい咳が特徴です。

### ● 犬コロナウイルス病 ●

犬コロナウイルスによる伝染病です。

このウイルスは感染犬の便や尿に放出され、経口感染します。

子犬の場合は、嘔吐と中～重度の水様性下痢を引き起こします。

潜伏期は1～2日で軽い胃腸炎の症状の後、多くは回復します。

### ● レプトスピラ感染症 ●

レプトスピラ症は、レプトスピラという細菌による感染症です。

レプトスピラに感染しているネズミなどの野生動物の尿や、その尿に汚染された水や土を介して皮膚や口から感染することが知られています。犬を含むほとんどの哺乳類に感染し、発熱や嘔吐・脱水・出血などを引き起こします。重症化すると死に至ることもあります。

レプトスピラにはいくつかの型があり、カニコーラ型・イクテロヘモラジー型・グリッポチフォーサ型・ポモノ型の犬レプトスピラ感染症がワクチンで予防できるようになっています。

レプトスピラ症は、犬だけではなく人にも感染することがあります。このような動物から人に感染する病気を「動物由来感染症」と呼びます。

## ワクチンの種類

- 6種混合ワクチン：7000円
- 10種混合ワクチン：8000円

## ワクチン接種の時期

生後2か月齢頃になると、母犬からもらった移行抗体がなくなっていきます。  
その頃に1回目のワクチン接種をしてあげてください。  
初年度は1回の接種だと免疫力がつきにくいいため、2～3回の接種が必要です。  
1回目のワクチン接種から1か月後に2回目の接種をしてあげてください。

ワクチン接種によって作られる免疫は一生続くものではありません。

成犬になっても継続して受けてあげてください。